

## 第4章 考察と今後の課題

### (1) 平成27年度新入生の特徴と考察

第1章、第2章に示した平成27年度新入生調査より明らかになった特徴をまとめる。

#### ① これまでの進路選択 — 高い中学受験経験率と「お茶大が第一志望」

平成27年度新入生は、例年とほぼ同様の傾向にあるが進路選択に二つの特徴がある。ひとつは、小学校および中学受験を経験した学生が全国平均と比較して多いことである。新入生のうち、小学校受験を経験した人は全体の7.2%、中学校受験を経験した人は43.2%であった。1章で述べたように、「第2回 大学生の学習・生活実態調査」(Benesse 教育研究開発センター 2013)によると大学生の中学受験経験率は27.8%であり、それと比べると本学の新入生の中学受験経験率は高い方に偏っている。

もうひとつの特徴は、本学が第一志望である新入生は87.8%と9割近くに及び、昨年度の86.4%より1.4ポイントの増加をしている。これらの2点の特徴から、約3割の学生は中学受験において受験勉強に勤しみ、中高一貫校で学ぶことを経て本学に第一志望で入学している。他方で、7割弱の学生は高校受験において努力をし、高等学校でも勉学に勤しみ本学に第一志望で入学している。いずれの進路であっても、約9割が第一志望である本学に入学するために、継続的に勉学に努力していたことが推測される。

#### ② 大学生活の予定と経済的側面 — 自宅外通学者は約4割、アルバイト予定者は約6割

新入生調査では、大学生活におけるアルバイトや経済的側面についても回答を得ている。大学入学後に頑張ろうと思う活動については、「大学の授業」99.5%、「友達との交流」78.3%、「クラブ・サークル活動」74.2%と大学を中心にした活動が続く。一方で「アルバイト」に頑張ろうと回答した新入生は64.0%にもなり、学期中にアルバイトを予定している学生は約6割にも及んでいる。

また大学生活において、大学入学後に実家から通学するが新入生は56.7%であり。賃貸アパートやマンションに居住する新入生は30.8%、同様に国際学生宿舎は13.7%、お茶大SCCは10.3%となっている。また実家を離れて居住する学生の仕送り金額について、仕送り予定が10万円未満の学生は50.5%に及んでいる。

授業料負担に関しては、「保護者がほぼ全額を負担」する学生は82.2%に及ぶ。一方で、「一部を本人負担」14.7%と「ほぼ全額を本人負担」2.9%を合わせると約2割の新入生は奨学金やアルバイトで授業料を負担することが示された。

#### ③ 大学生活での不安および期待する学生支援

新入生が大学生活に不安を感じることで最も多いのは「授業や単位」65.5%、次いで「就職や将来」52.1%、「人間関係」51.1%である。そして学生が期待する学生支援では、「就職支援」が77.0%と最も多く、次いで「進路相談」67.2%が続くことが示された。また保護者調査でも、保護者は学生支援として「就職支援」を期待する人が86.0%と最も多く、文教育学部や生活科学部では9割を超える保護者が大学に就職支援を期待している。

#### ④ 卒業後のキャリア

「大学卒業後のキャリアについてどのように考えていますか」という質問に対し、正社員としてキャリアを継続する意識をもつ学生(81.7%)や大学院への進学を考えている学生(64.6%)が

多いことが明らかになった。また結婚・出産を経ても就業継続を希望する割合も 68.9%と約 7 割に及び、新入生の時点からキャリア継続の意思があることが推察される。

## (2) 奨学金と学生寮に関する考察

第 3 章で述べた学生支援における奨学金・学生寮のクロス表分析についてまとめる。

### ① 奨学金

奨学金についての新入生の結果をまとめると、「奨学金の認知」(表 1-1～表 1-5)については、「学生寮について認知している者」は、奨学金の認知が高いことが示された。しかし「奨学金受給経験」「兄弟姉妹人数」については、統計的に有意な関連は見られなかった。これは昨年度の調査でも、同様の結果が示されている。また、「奨学金の受給経験」(表 2-1、表 2-2)については、「兄弟姉妹人数」「学生寮認知」については有意な関連が見られなかった。これは昨年と同様の結果である。

奨学金についての保護者調査から、「奨学金希望」(表 3-1～表 3-9)については、「過去に奨学金の受給経験があるもの」「世帯年収の低い者」「家計支持者の年収が低い者」「父親の就労形態がパートタイムの者」「家計支持者が母親の者」「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」は、奨学金の希望が高いことが示された。昨年度は「学生寮の認知」との関連が見られたが、今年度は有意な関連は見られなかった。

### ② 学生寮

学生寮について新入生の結果をまとめると、「学生寮の認知」(表 3-1、表 3-2)について、「奨学金受給経験」「兄弟姉妹人数」については、有意な関連が見られなかった。これは昨年度の調査でも同様の結果が示されている。

学生寮について保護者調査の結果からは、「学生寮の希望」(表 4-1～表 4-9)について、「世帯年収の低い者」「家計支持者の年収が低い者」「入学後の暮らし向きにゆとりがあると感じている者」は、学生寮の希望が高いことが示された。昨年度は「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」に学生寮への希望が多いことが示されたが、今年度は異なる結果が示された。

### ③ 過年度との比較

過年度比較の結果についてまとめると、新入生の「奨学金認知」、「学生寮認知」、保護者の「学生寮認知」についてはいずれも、昨年度よりも認知する割合が減少し、過去 5 年間と比べても低い割合だったことが示された。「奨学金認知」については、保護者調査の結果では減少してはいないため、新入生本人が、奨学金について関心を持っているかどうかによるものと推察される。

学生寮については、すべての学生にニーズがあるわけではないが、「お茶大 SCC」のように自宅から大学までの距離制限を設けていない学生寮もあるため、大学入学と共に親元を離れるということを選択肢として考えることについて、今後どのような変化があるのか見ていきたい。また、学生寮への入寮を必要としている学生に向けての広報を引き続き強化する必要がある。

### **(3) 学生・キャリア支援における課題**

平成 27 年度新入生調査および保護者調査を通じて得られた、本学における学生・キャリア支援の課題は次の 3 点である。

#### **① 経済的支援の充実**

第 1 は、すべての学生が学業に専念できるような経済的支援の充実である。自宅外通学者は約 4 割であるとともに仕送りが 10 万円未満の学生は約半数に及ぶ。そして授業料を全額もしくは一部を本人が負担する学生は約 2 割である。これらの現状を十分に認識し、日本学生支援機構の奨学金をはじめとし、本学独自の奨学金や経済的支援を学生および保護者に十分に広報するとともに、教職員を通じた学生からの相談をきめ細かく学生支援部門につないでいくことが学生支援に求められる。

#### **② キャリア支援の活用促進**

第 2 は、進路指導やキャリア支援を学生が活用することの促進である。約半数の学生が入学前から「就職や将来」に不安を感じており、約 7 割の学生は、進路相談や就職支援を大学に期待している。こうしたニーズを大学として十分に認識し、進路相談や就職（キャリア）支援の利用促進を行い、学生のニーズに応えるとともに、教職員が就職環境について把握した上で支援を充実させていくことが求められている。本学のキャリア教育・キャリア支援における今後の課題として、低学年からの進路相談やキャリア支援、キャリア教育の浸透を目指し、リーダーシップ教育部門とも連携して進めていく必要がある。

#### **③ 「みがかずば」の理念に沿ったリーダーシップ教育・キャリア教育の提供**

第 3 は、新入生のもつキャリア意識を一層高め、学業を通じて培うであろう専門性を社会で十分に発揮できるようなリーダーシップ教育およびキャリア教育、キャリア支援を提供することである。前述の通り、今年度新入生の回答では、正社員としてキャリア継続をする意識をもつ学生、大学院進学を既に考えている学生、結婚・出産を経ても就業継続を希望する学生の割合は多い。将来を見据えた上で、本学を志して入学するという学生の意識の高さをうかがうことができ、入学時からキャリア形成の意思があることが推察される。こうした新入生の高い意識に応えるべく、本学の「みがかずば」の理念に沿った、生涯を通じて役立つキャリア教育・キャリア支援を実践することが今後の課題である。